

教職員自己紹介

古井 陽之助 (ふるい ようのすけ)

実習助手

長崎出身です。昭和 62 年に九州大学工学部に入学してから平成 5 年に九州大学大学院の修士課程を修了するまでの 6 年間は福岡に住みました。その後日本アイ・ピー・エム (株) に入社し、研究員として 7 年間、SE として 1 年間勤務して、サラリーマン生活を計 8 年間経験しました。研究員時代は主に人間同士の共同作業を支援するためのシステム (グループウェア) の研究で



した。サービス部門時代はいわゆるドットコムカンパニーの商用 Web サイト作りに関わりました。

その後、学位を目指すべく退職して学生に戻ったのが平成 13 年の春つまり 2 年程前です。九州大学大学院の博士後期過程に入学しました。研究テーマには「サイバースペースにおけるコミュニケーション」という極めて曖昧な名前がついていますが、ネットワークで行われる揮発性の議論を後に残る「資産」に変えるためにはどのようなシステムがあれば良いか、というのが主な内容です。Java でプログラミングしたり論文を書いたり、会社での経験も役に立てながらやっています。ただ、情報処理技術の中でもインターネット関連は特に動向が目まぐるしく、人間の一生に比べて短い犬の一生に例えて “dog year” と言われるほどです。ボーッとしていると自分の仕事はあっさり古びてしまうので大変だということを痛感する毎日です。

平成 14 年 4 月から、九州産業大学情報科学部の実習助手としても勤務しています。表に見える仕事としては、情報リテラシーや離散数学の演習をお手伝いしています。苦勞の種やはり離散数学です。なにせ自分が勉強したのは 10 年以上前ですから、その内容は完全に記憶からとんでしまっており、本当に勉強したことがあるのかどうか記憶が怪しいほどです。指導するというよりは一緒に勉強するという状況でやっています。しかし、今改めて大学一年生レベルの数学を振り返ってみると、自分が勉強していた当時は何の役に立つのか解らなかったような内容でも、後で必ず基礎として役に立つはずのものだということに気がきますね。

趣味は紅茶を飲むことです。大学の同窓会会報に寄稿したときには、近況報告の代わりに大学周辺の喫茶店に関する調査報告を書いたほどです。情報科学部キャンパス周辺の喫茶店についてはなかなか行くキッカケが無いのですが、いずれ何とかしたいと思っています。